

いしずえ

礎

茨城県民間保育協議会青年部

■部長挨拶■

茨城県民間保育協議会青年部部长 藤崎 貴英
(北浦保育園・いなほブロック)



民間保育協議会青年部の皆様におかれましては日頃より熱心なる活動を、そして温かなお心と多大なるご協力いただいておりますことに深く御礼を申し上げます。

青年部の柱となる委員会活動も、皆様お一人お一人のお陰で、その在り方自体にとっても多くの意味深い結果が出つつあります。そして、今期最後となる一年を先読みしてみても各委員会が一つとなって幾つものとても意味深い案が上程されております。皆様方におかれましては残任期間におかれましても、委員会間横の繋がりを大切に活動をお願いいたします。

そのような中、先日某会の研修会へと参加いたしました。冒頭にあった会長の挨拶に「誰よりも子ども達、そして地域社会のために今一番必要とされているものが何

かを見極めながら皆様と共に活動をしてゆきたいと思えます」なるお言葉がございました。久しぶりにそのような言葉を耳にした私は、新鮮で清々しい感動を憶え、終始笑顔で、うなずきながらの拝聴でありました。

現体制の任期は残り一年。現制度についても選択制は残ったものの残りは同じ一年。未来の日本の在り方を左右すると言っても過言ではない大切な時勢に皆さんと共に活動ができるということに意義深いものを感じ、そして我々次世代を担う者としての強い責任感を感じずにはいられません。それは誰より何より目の前で真っ直ぐな瞳を輝かせながら一生懸命に生きる力を育てている『次世代を担う児ら』を思えば…。

■副部長挨拶■

日本保育協会青年部担当 副部長
高 信晋 (日の出保育園・いなほブロック)



皆さんこんにちは。私は副部長を務めさせていただきます高信晋と申します。どうぞよろしくお願い致します。私が担当している日本保育協会青年部では5月に総会が行われ、1期2年の役員が決まりました。県内からは、事務局次長に上小瀬保育園の金澤信仁先生、広報委員会副委員長に大宮聖慈保育園の後藤貴哉先生が選ばれ今期活動していきます。どうぞよろしくお願い致します。

さて、本年は認定こども園法等の制度の切り替えの時期になります。新制度の形は見えてきましたが、私たち自身がこれからの自分の園や子どもたち、地域をどのようにしていくのか考えていかなければなりません。そのためにも青年部のメンバーと情報交換し、大いに保育について語りたいと思います。

最後になりますが、誠実に、謙虚に、感謝の気持ちをもって青年部らしく活動していきましょう！皆様どうぞよろしくお願い致します！

■副部長挨拶■

全国私立保育園連盟青年会議担当 副部長
柳澤 克彦 (国分台ふたば保育園・いしおかブロック)



全国私立保育園連盟青年会議は、45歳までの在籍で年齢制限があり、私も任期途中ですが今年46の歳を迎えました。今期、今年度で最後の任期になりますので、出来るだけ次世代にスムーズに引き継げるようにこの一年間勤めて参りたいと存じます。さて、昨年度の第33回全国茨城大会では400名を超える大会となり、民保親会の先生方、青年部部員の皆様には、平日にもかかわらず、たくさんの職員の先生方を動員していただき、ご理解ご協力を賜りましたことを心から深く御礼申し上げます。ありがとうございました。全国からご参加いただいた先生方からもとてもご好評をいただき、皆様に支えられた大会となり、実行委員長としても喜ばしく思いました。今後も何かとお願いする事もありますが、今回の大会のように青年部一丸となって今後も青年部活動を活発に進められるよう皆さんと協力し合い活動を進めて行きたいと思っておりますので、ご理解ご協力の程をお願い申し上げます。

■各委員会の活動紹介■

今年度も1年間、各委員長が青年部の事業の中心となって切り盛りしていきます。

調査研究委員会

■昨年度の主な活動

昨年度は「外部講師の利用状況について」のアンケート調査を行いました。この結果によって、外部講師の様々なメリット・デメリットを見ることができたと思います。この調査を少しでもこれからの保育園運営に活かして頂ければ幸いです。また、アンケート調査にご協力いただいた各保育園の先生方、そして不肖の委員長を支えてくれた各委員のご協力に改めて感謝いたします。ありがとうございました。

■今年度の主な活動予定

8月31日に開催される「いばらき民間保育園就活応援セミナー」に参加する学生と潜在保育士の方を対象としたアンケート調査の実施を予定しております。

また、毎年行っている「市町村別保育料基準額」調査についても継続していきます。

今年度も充実した委員会活動を行えるように努力していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



委員長 藤峰望夢
所属：恵泉保育園
(県央ブロック)

外部講師の利用について調査しました。(結果の一部です)

Q 保育園で外部講師を利用している割合
A 利用している 80%
利用していない 20%

Q 保護者負担はありますか？(運動系の指導において)
A ある 11%
ない 89%

Q 外部講師利用のメリットは？
「専門的な知識を持ち、職員の刺激になる」 他

Q デメリットは？
「費用がかかる」「頼り切ってしまう」「講師の都合に合わせなければいけないことがある」 他

研修委員会

筑波山での研修会

研修委員会では、雪の降る中でしたが、2月につくば市で研修会を実施しました。内容は「これからの保育・教育～私たちが担うべき役割とは～」をテーマとし、神戸大学大学院の北野幸子先生に講師としてお越しいただきました。

研修の感想(瓜連保育園 小笠原聖華)

総じて、膨大なデータを整理するにとどまらず、有効な実践に結びつける。この最も基本的なことを話しているだけなのに、なぜこうまで我々の心を引きつけるのか。意識せずに行っている日々の保育が、綿密なデータにより論理的裏付けを与えられ、再び目前に姿を現す。新鮮！の一言に尽きる。多くの部員が大雪に阻まれ筑波山にた



どり着けない中で行われた北野幸子先生の講演は、その熱さで雪を溶かさずばかりだった。

「保育」を真の学問にすることこそが、保育に携わる者の社会的地位向上ひいては処遇の改善につながる。限られた時間の中でも、実践を省察することで保育者の資質を大きく高めることが出来るのに、それを少々軽視してしまっていたのか。個人的に猛省しきり。

子どもは「無自覚」に学び、大人は「自覚して」援助する。漠然とした実践に言語を与えてくれた北野先生は、保育界とアカデミックな世界の翻訳者のようだった。花子と呼びたい。

近々、北野先生が再度茨城に研修会講師としてお見えになるとか。パンダのように愛くるしい眼鏡の奥から、切っ先鋭く保育界の弱点を貫き、また我々にギャフンと言わしめてほしい。



委員長 鬼澤英二
所属：つくし学園
(ひたちなかブロック)

■今年度の活動は…

保育制度の大転換期ですが、本来の保育を見失わないよう保育者としてのますますのキャリアアップをめざした研修会を企画したいと思っています。

広報委員会

昨年度は「礎」を2度発行し、3月には広報誌作成テクニックの勉強会を開催しました。

勉強会では、富士ゼロックス茨城の先生から「見栄えの良い広報誌レイアウトのコツ」について講義を受けました。具体的には、この研修を受けると右のように紙面が洗練されます。

同封の「就職応援セミナー」のチラシも今回の研修会を踏まえてワードで作成しました。

◆ご参考のために勉強会で配布した広報委員会でまとめた「広報誌作成のコツ」を同封しています。



委員長 中川 祐一
(さしま保育園・県西ブロック)

【受講前】



【受講後】



★研修会を受講してポイントを抑えてレイアウトすると左のチラシが右のように見やすくなります。

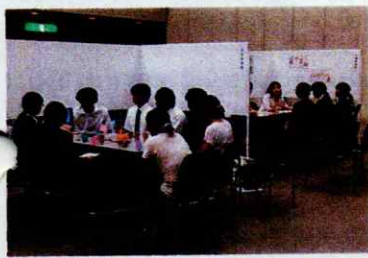
特別委員会 & 渉外委員会

■昨年度の活動

昨年度の特別委員会と渉外委員会は26年度に初めて行う「いばらき民間保育園就活応援セミナー」開催に向けての準備を合同で行なってきました。また加えて、埼玉県の私立幼稚園団体との合同研修会を開催致しました。

研修会では、保育園・幼稚園におけるリスクマネジメントの専門家、(株)アイギスの脇社長をお招きし、管理者としての必要スキルを身に付ける学びの場となりました。研修会終了後の情報交換会においては保育園と幼稚園、茨城県と埼玉県の垣根のない、有意義な情報交換、交流の時間を過ごしています。

■就活応援セミナー開催に向けて (平成26年度の事業として)



就活応援セミナーの開催準備は石川県金沢市で行われた石川県と日本保育協会石川県支部主催の就職セミナーの視察から始まり、各方面から情報を収集して、企画を練ってまいりました。企画内容の打ち合わせは特別委員会だけでなく、青年部全体の取り組みへと広がり、部員同士の団結力が発揮され、より良い企画となり民保協理事会の承認も得ることができました。

就職応援セミナーの開催日は8月31日と決定しました。主催は茨城県民間保育協議会で主管として主な運営は青年部が担います。現在のところ決まりました概要は、以下の通りです。



特別委員長
松山圭一郎
(まつやま中央保育園
稲北ブロック)



渉外委員長
浅野学志
(めぐみ保育園
県央ブロック)



いばらき民間保育園 就活応援セミナーの 主催、後援一覧

主催：
茨城県民間保育協議会

後援：
茨城県保健福祉部子ども家庭課
茨城労働局
茨城県社会福祉協議会
茨城県保育協議会

主管：
茨城県民間保育協議会青年部

いばらき民間保育園就活応援セミナー開催について

◆開催の主な目的

●保育士養成校に在籍する学生の保育園就労の促進

多くの県内民間保育園が一堂に会して、学生へ保育園情報を提供することによって、保育園就職への不安を取り除き、また早期退職などのミスマッチを防ぎます。

●潜在保育士の保育園就職の支援

ハローワークなどにも案内を配布し保育士資格を持ちながら他職種に就いている方や子育てなどにより一度退職し、現在再び保育園で働くことを考えている方の就労支援をします。

●保育士不足の解消

上記二つの動きかけによって集まった方に保育園という職場をアピールし、保育士を志す方に夢と自信を与え、養成校卒業生や潜在保育士が他の業種に流れることを食い止めることを目指します。

◆日時：平成26年8月31日(日) 13時～17時

◆会場：茨城県総合福祉会館(全館使用)

◆参加予定者：保育士養成校に在籍する学生および
潜在保育士の求職者(目標300名)

◆内容

①パネルディスカッション(45分)

テーマ：「先輩保育士と本音を語ろう！」

②講演(45分)

講師：我武者羅応援団(がむしゃらおうえんだん)

③個別保育園説明会(1時間45分)

応募された県内約60の保育園が、各ブースで保育内容や職場環境をアピールします。
(1クール15分、保育業界のアピールを目的とするので求人票の開示は遠慮いただきます)



「我武者羅応援団」
学生に元気と勇気を与えます

特別研修会 (6/5)

講師：保育システム研究所代表 吉田正幸氏
会場：こどもの城（東京都渋谷区）



講師：吉田正幸氏

6月5日に東京こどもの城にて青年部特別研修会が開催されました。子ども子育て会議の中で5月末に公定価格も示されたことを受けて、前半は「新制度のポイントと公定価格を考える～私立保育園の対応策と今後の課題～」をテーマとして新制度の行方を考えました。これから私たちは大きな選択をし、その責任が求められます。研修を受ける姿は、皆、真剣そのものでした。

後半は質疑応答を中心に、新制度への疑問点や自園が抱える認定こども園に移行するにあたっての問題を先生にお尋ねし、青年部らしい活発な意見交換がなされました。また研修会後の食事をしながらの情報交換会でも、多忙の中、吉田先生にはご参加いただき、ざっくばらんな意見交換を行い、有意義な時間を過ごすことができました（しらはね保育園 田尻）。

「新制度のポイントと公定価格を考える」～私立保育園の対応策と今後の課題～

講義の一部を紹介します。

20年後は乳幼児人口が激減！

- 新制度誕生の背景 -

この20年間に子どもを産み育てていた中心世代は200万人以上いました。一方、これからの20年間は、これら子どもを産み育てる人口は120万人で、その結果この20年間に子どもの数はほぼ半減すると予想されています。

このような状況で制度改革をしなければならなかった社会背景

- ・ 少子化対策
- ・ 幼児教育の充実
- ・ 破綻寸前の社会保障制度



市町村の権限と責任が拡大！

- 実施主体は市町村 -

新制度の実施主体は市町村になります。現在、各自治体はその市町村における保育のニーズ（需要）を把握した段階。これに沿って受け入れ態勢の整備（供給）を盛り込んだ計画を立てています。

今後自治体は地方版子ども子育て会議を通じて、【保育の必要性についての認定制度】や【保育料】の策定にも関わってきます。

将来、乳幼児が減ったときの供給側の調整をする役割も担うものとされています。



新制度を活用して 法人体制の強化をしよう！

自園の5年、10年、20年先を考えましょう。一部の地域以外は、20年以内に子どもの数が激減し、供給過剰になります。

そのときに備えて基盤強化を図りながらどのようにして高機能の施設運営をするのか。あるいは、選ばれる園になるために保育の質をいかに高めていくのか。質の基盤である人材確保と育成をどうするのかというのが、ここ数年の大きな課題です。

新制度をうまく利用して、これを園を見直すチャンスだと思い、前向きな姿勢で変革を乗り切りましょう。

茨城県民間保育協議会青年部です。

- 最近、話題になりました「社福！」 -

青年部は、50歳未満の県内の保育者で構成されています。保育事業の振興を目的としたさまざまな事業を通し、交流を図りながら各部署で切磋琢磨しています。



保育についての最新情報もメールで定期的が届き、そのメールで意見交換も日常的になされています。最近では右の朝日新聞の社会福祉法人についての記事が話題になりました。法人格の売買については、会員から「田舎ものの私には想像もできないような事ですね」といった驚きの反応がありました。

先日、国から「決算書類などのインターネットによる公表を義務化」する旨の通知が届きました。改正の趣旨は税制優遇等を受けている社福は、国民に対して経営状態を積極的に公表し、透明性を確保することが責務である、と示されていました。これは右の記事のような最近のマスコミの風潮と無縁でないように思えます。

広報委員会では委員長がこの件に関し、全国社会福祉法人経営者協議会の方が講師をするセミナーに参加してきました。これからは具体的に社福は次のようなことを求められるだろうとのこと（講師の見解です。3つ紹介します）。

社会福祉法人の売買横行 理事長私物化、数億円で取引も（「朝日新聞」5/19付）

「3億円で理事長ポストを買わないか。何回かに分けて現金で払えばいい」山口県下関市の会社社長(69)は2010年6月、横浜市の「朝日の里」の当時の理事長(75)からこう持ちかけられた。障害者施設などを運営する社福だ。「もうだし、やめるつもりだ」という理事長は、数億円にのぼる朝日の里などの預金通帳を見せてこう言ったという。「理事長に就いたら自由に使える」「理事を身内にすれば、理事長を引き継ぐという形で決められる。現金でもらえば売買は表に出ない」(以下記事は続く)

社福の内部留保2兆円「待遇改善の財源に」 （「朝日新聞」5/31付）

財務相の諮問機関「財政制度等審議会」は30日にまとめた報告書で、特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人(社福)が収益を巨額の「内部留保」としてため込んでいると指摘した。低賃金とされる介護職員の待遇改善に安易に税金を投入せず、まずは内部留保を人件費としてはき出すよう求めたものだ。

介護の現場では、低賃金や長時間労働による人手不足が問題になっている。一方、社福の一部では、理事長職の売買など私物化や乱脈経営の事例が判明している。(以下続く)

★内部留保（積立金）の説明

このお金が何のために必要でどのように使っていくのかの説明。その他、経営情報の見える化が要求される。法人役員報酬の公表を求める意見も一部に出ている。

⇒内部留保があるとこは悪いことではない。それがきちんと説明できれば良いとの論調に変わってきているとのこと。

★評議員会の設置

理事長をチェックするのは理事会。その理事会をチェックできるのは評議員会で、理事選任も評議員会でなされる。このことも含めて、評議員会は法人のガバナンス確保のための最重要機関として設置が求められる。

⇒一般的な公益法人では必置なのに社福でこれがないのは、これからは許されないだろうとのことでした。

★公的取り組みの推進

これからの社福は事業外での社会貢献事業が要求されるそうです。

具体的には、貧困や生き難さ、生活上の諸問題を抱えた「生活困窮者」の支援を積極的に行うことが求められる。

⇒現在の制度ではカバーできない「制度の狭間」で困難を強いられている方への新たな取組を社福は期待される。



会員募集！

当会では県内民間保育園の会員で50歳未満の方の入会を随時受け付けています。興味のある方は、ブロック内の青年部会員に気軽にお尋ねください。

「礎」発行 by 広報委員会

【委員長】 さしま保育園 中川祐一
【編集委員】 旭保育園 朝倉涼二
玉里保育園 戸田見良
とりのす保育園 藤枝明人

◎ご意見などがありましたら、ご連絡ください。

【副委員長】 しらはね保育園 田尻育子 眞壁保育園 長谷川夏生
大宮聖慈保育園 後藤貴哉 きさき保育園 小堀和枝
中央保育園 香取秀聡
はぐろ保育園 柴山俊行

